

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 鳶尾小学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
	2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
	3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 永桶千秋

学校教育目標	学校経営の方針
心豊かに、共に未来をたくましく生きる児童の育成 自分に自信と誇りを	すべての子どもたちの可能性を引き出す新しい教育活動の展開を目指す

今年度の重点目標

- 1 新型コロナウイルス感染症に対応した持続的且つ柔軟な学校経営を行う。
- 2 子どもたちの豊かで健やかな学びを保障する。
- 3 子どもたちが学校生活を通して「新しい生活様式」に則った行動が学校内外でできるように指導する。
- 4 学校運営協議会をベースに地域との連携及び協働を深める。
- 5 いじめを許さない、望ましい集団作りを図る。(感染症や濃厚接触者、医療従事者に対する偏見や差別への対応)
- 6 学校農園を活用した食育の推進を図る。
- 7 教職員の働き方改革を推進するとともに、風通しの良い職場づくりを目指す。

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学校の教育方針や情報などを、学校ホームページやたよりなどで保護者(地域)にわかりやすく伝える。	3	学校便りやホームページ・連絡メール等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報提供する。「鳶尾小スタンダード」の周知徹底を図る。	・保護者・地域の方に学校の経営方針、教育活動の様子を学校便りやホームページなどによって情報発信することができた。 ・鳶尾スタンダードは保護者への学校のルールなどについての周知に一定の役割を果たしていたが、職員の異動などもあり、共通理解にやや課題が残った。 ・欠席に関してはホームページよりアクセスできるよう整えたり、連絡メールが各家庭に確実に届いているかを毎月1回テストメールを配信し確認したりした。外国籍の家庭については、配慮が必要である。	・鳶尾スタンダードについては、グループごとに見直しをし、全職員で来年度に向けての共通理解を図った。また、さらにきめ細かい教職員の指導に関する共通理解を図るため、児童指導・支援グループにおいて原案を作成し、職員が入れ替わった4月当初の職員会議で確認をしていく。 ・連絡メールで情報が確実に伝わるように、定期的に確認する。日本語指導協力者の力も借り全世界に、内容が確実に伝わるようにする。
特色ある学校づくりとして、朝読書・学校図書館の活用など、読書活動の推進に努めている。	1・2・3	読み聞かせボランティア、教員及び図書委員による読み聞かせを年間を通して、計画的に行う。おすすめの本などの紹介コーナーなども作り、児童の読書への興味・関心を高める。	定期的な読み聞かせやおすすめの本の紹介、学級文庫の充実と共に、定期的な中央図書館からの本の貸出し等を利用し、学級文庫も充実しており、児童は本によく親しみ、視野を広げ、豊かな心の育成を育む一助となった。週一時間の、図書館での読書活動の際も、学校司書による本の貸出しが定着している児童も多く見受けられる。	・読み聞かせボランティアの活動は、どの学年の児童もとても楽しみにしている。来年度以降も継続して実施していく。また、委員会中心に昼の放送などを活用して、読書啓発をすすめていきたい。
特色ある学校づくりとして、食育を意識した学校農園を活用した栽培活動に取り組んでいる。	1・2・3	学級活動の時間を利用したり、栽培委員会が中心になり活動したりして食に関する意識を高める。	季節ごとに育てる野菜や植物を変え、土づくりから栽培まで一貫して活動することや育てた野菜を給食の食材に利用することで感謝の心と豊かな心の育成を育んだ。	・次年度は地域に開かれた教育課程を意識して、地域の力(人材)を活用していきたい。総合的な学習の時間で取り組んだり学級活動に計画したりして計画的に取り組む必要がある。

<p>鳶尾小の学区は放課後や休みの日に安心して遊ぶことができる。</p>	<p>2・3</p>	<p>地域や行政と連携し、放課後子ども教室や児童館の積極的な利用を促す。自治会長懇談会を年3回実施し、地域の方々との情報交換を定期的に行い、学校と地域が協働して児童の育成に努める。</p>	<p>鳶尾小の学区は、豊かな自然や数多くの公園などに恵まれ、安全・安心に放課後や休みの日に過ごすことができていると感じている、児童や保護者が非常に多い。また、児童館や放課後子ども教室の利用も非常に多い。課題としては、公園での遊び方やごみの片づけなどがあるので、定期的に注意喚起していく必要がある。</p>	<p>・PTA行事や地域の行事など、学校運営協議会や公民館とも協力しながら児童が安心して安全快適に過ごすことができるようにしていく。</p>
<p>児童は、学校に仲のよい友達がいる、楽しく遊んだり、話したりしている。</p>	<p>2・3</p>	<p>日々の教育活動や、人権週間などを利用し、自他を尊重し、多様性を認め合いながら、温かい人間関係の育成に努める。また、ロング昼休みを利用した、縦割り遊びや昔遊びを定期的に行う。</p>	<p>多くの児童が、学校に仲のよい友達がいる、楽しく学校生活を送っていると答えている。低学年では、地域の方を講師に迎えて「とびお塾」による昔遊び体験などは、非常に好評である。また、縦割り遊びなどでは、高学年がリーダーシップを発揮する場面が見られた。</p>	<p>・教育相談の充実、いじめ防止のワークショップ、人権週間の取組などを充実させ、多様な個性を持った児童がお互いを認め合い、楽しい学校生活を送ることができるようにしていく。また、支援の必要な児童への指導方法などについても職員研修を重ねていく。</p>
<p style="text-align: center;">今年度の学校関係者評価委員会からの意見</p>				
<p>学校教育目標の具現化に向けた取組について理解していただき、結果から概ね達成できていることを評価していただいた。特に、食育を意識した学校農園を活用した栽培活動については高い評価をいただいた。一方で、地域における挨拶などについては課題が残った。また、学校の宿題以外の家庭学習についてもやや評価が低かった。</p>				
<p style="text-align: center;">今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針</p>				
<p>学校教育目標に基づき、学校として組織的に、また個々の職員も創意工夫しながら積極的に取り組み、概ね成果を上げることができたと考える。来年度は、「心にエネルギーを」のスローガンのもと読書活動と体験活動を多く取り入れながら、豊かな自然と地域の教育力を活用した、地域に開かれた学校づくりを目指していきたい。</p>				